

【著書紹介】

室内環境学会 編「室内環境の事典」

—快適で健康な暮らしを支える科学—

西原直枝

日本女子大学家政学部被服学科

はじめに

住宅、オフィス、学校、交通機関など、室内環境は、多くの人が長い時間過ごす場所であり、被服衛生学分野と同様に、その質は、人間の快適性や健康性を支える重要な役割を果たしている。本稿では、室内環境学会が編集した「室内環境の事典」を紹介する。

1. 室内環境学にかかわる多様な学問領域

本書の序文によると、「室内環境中には、ウイルスや細菌などの微生物、化学物質や微粒子、音・光・熱などの物理的要素が存在」しており、従来はその要素ごとに専門分野が分かれ、研究がなされてきたが、近年、快適性や健康性にかかわる室内環境の問題が多様かつ複合化するにつれて「学問分野を超えた学際的な取り組みが必要」とされるようになってきたという。このことが、本事典を編集する経緯とのことであった。

室内環境学会の会員に限らず、多様な分野の研究者や実務者が執筆を行っていることも、特徴のひとつであるといえるだろう。事典は、全8章から構成されている。第1章「総論」、第2章「生物・微生物」、第3章「化学的要素」、第4章「物理的要素」、第5章「健康影響」、第6章「研究手法」、第7章「対策技術」、第8章「実践」であり、一つのテーマにつき、見開き2ページの解説がコンパクトにまとめられている。

2. 室内環境学における被服の位置づけ

被服衛生学に直接的に関係の深い内容としては、文化学園大学名誉教授の田村照子先生が、第1章の「1-12 衣と室内環境」をご執筆されている。衣と住の違いについて「相違点は、人間との距離にあり、衣服は人間に最も近接した持ち運び可能な微小環境 (portable micro environment) を制御する」と述べられている。「衣による環境

制御」「衣服気候」「衣服の断熱力と水蒸気透過抵抗」「気候と衣服」に加え、「夏の衣服と室内環境-クールビズ」および「冬の衣服と室内環境-ウォームビズ」など省エネルギー性との関連についても述べられている。室内環境における被服の位置づけや重要性を理解することができる。

3. 室内温熱環境や研究手法に関する内容

室内温熱環境に関する内容については、第4章にあり、「4-4 温熱環境」「4-5 熱の伝わり方」「4-6 温冷感」「4-7 温熱環境指標」「4-8 日射環境」「4-9 湿気環境」「4-10 熱ストレス」で構成されている。西原は「4-7」の執筆を担当し、暑熱・寒冷環境における代表的な温熱環境指標とともに、一般的な室内環境にて用いる温熱環境指標について述べた。また、第6章ではさまざまな室内環境要素の研究手法が挙げられている。生物、微生物、化学物質、におい、光など研究対象が多岐にわたっており興味深い。そのうち西原は、「6-36 知的生産性調査」の項目を担当し知見をまとめた。

その他、実際の室内環境における課題の対策技術や実践事例なども豊富である。被服衛生学の分野と関連の深い内容が多く、専門分野の知見を生活に生かす視点において参考になることも多い。

書誌情報

一般社団法人室内環境学会編「室内環境の事典」
朝倉書店, 全 439 ページ, 2023
ISBN 978-4-254-26652-8

<連絡先>

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1
日本女子大学 家政学部 被服学科
西原 直枝
TEL: 03-5981-3479
Email: nishiharan@fc.jwu.ac.jp